

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立古里中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年(国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	137人	社会	137人	数学	137人
	理科	137人	英語	137人		

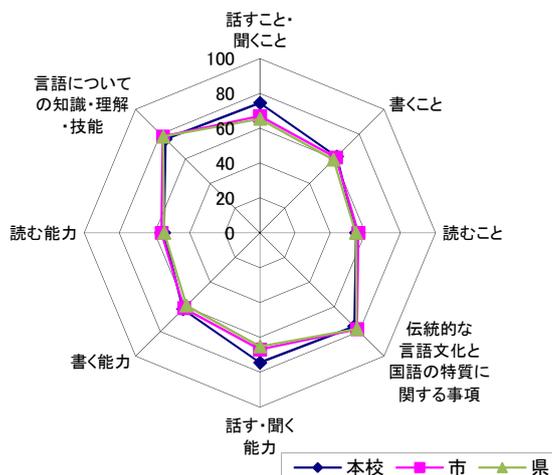
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	74.5	67.0	65.3
	書くこと	61.9	61.1	59.2
	読むこと	54.7	56.0	54.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.0	78.2	78.0
観点	話す・聞く能力	74.5	67.0	65.3
	書く能力	61.9	61.1	59.2
	読む能力	54.7	56.0	54.5
	言語についての知識・理解・技能	76.0	78.2	78.0



★指導の工夫と改善

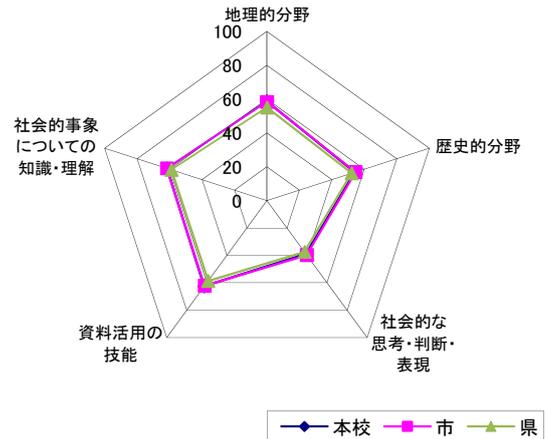
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は県、市よりも高い。 ○出された意見をよりよくするための意見を適切に述べることはよくできている。また、聞き手に理解してもらうための話の構成や話し方の工夫もよく理解している。 ●司会者の話し合いの進め方の工夫について理解しているが県の正答率より低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの意見を検討して自分の考えが広げられるように指導していく。 ・視野を広げるために、地域社会の中で見聞きしたことや、テレビ、新聞などから社会生活の出来事や情報に関心を持たせ、自分の考えが広げられるように指導していく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は県、市よりも高い。 ●詩の表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がある。 ○文章の書き方の工夫について記述する問題では、無解答率が県、市よりも少なく、正答率では県より4.2%、市より1.2%上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の表現技法やその効果をもう一度確認させ、根拠を明確にして自分の考えを書く練習を何度も行う。 ・書いた文章を互いに読みあい、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり、助言したりして、自分の考えを広げられるように指導する。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は、県、市よりも高い。 ○文章の構成や展開をとらえることができることは県の正答率より10%上回っている。意見をもとに3つのポップを見比べて、相違点を見つけていることができることは10.3%で県の正答率より上回っている。 ●文章の内容を整理し、要旨を捉えることが県の正答率よりも2.2%下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる機会を多く取り入れる。 ・多くの文章を読ませ、文章に表れている、ものの見方や考え方について知識を身に付けさせるとともに、自分の考えをもつようさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は、県、市よりも低い。 ○1年生までの漢字の読みは県の正答率よりも上回っている。 ●単語について理解しているが前年度よりも、県の正答率より2.2%下回っている。歴史的仮名遣いは県の正答率より、5%下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きを身に付けさせるために、漢字プリントを配布し、確認テストを行う。 ・単語については、単語の種類、意味、働きを再度確認させ、単語を正しく使うことで、日常の言語活動の上で互いの伝えたい微妙なニュアンスを、相手によりよく伝えられることについて理解させたい。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	58.7	58.4	55.0
	歴史的分野	54.1	54.6	52.2
	社会的な思考・判断・表現	38.9	39.8	37.5
	資料活用の技能	62.6	62.3	58.7
	社会的事象についての知識・理解	61.6	61.7	59.0



★指導の工夫と改善

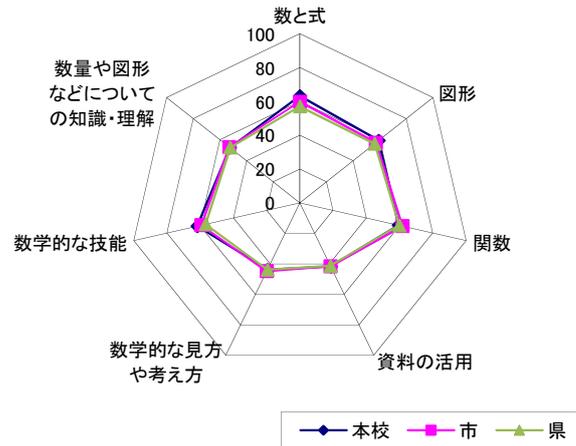
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は県、市よりも高い。 ○正距方位図法の読み取りの問題では、県平均より正答率が高い。 ○北アメリカに関する問題では、どの設問も正答率が県平均より5%以上高い。 ○標高の高い地域に住む人々の生活の設問に関して、正答率が高い。 ○記述式の問題では、正答率が県、市よりも正答率が高い。 ●地図から海洋の名称を読み取る問題について、正答率が低い。 ●示された条件からあてはまる国を推測し地図から選択する問題に関して、わずかではあるが、県・市の正答率より低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図の読み取りに関して、図法の特徴から、活用の仕方について今後も指導していくと共に、地図から特定の地域や名称を考えさせる指導を、資料集などを用いて、授業を展開していきたい。 ・自分の言葉で記述させるような、思考・判断・表現力の育成を今後も授業やテストの作成の際は重点におくことを心がける。 ・世界の諸地域学習では、地域の特色を浮き彫りにするような教材や資料の準備を心がけ、授業を展開していく。 ・資料の活用に関して、複数の資料を関連づけて特徴や、課題を見出すことができるよう、今後も指導の工夫をしていく。
歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は県よりも高い。 ○西暦と世紀の年代のあらし方について、県・市の正答率より約10%高い。 ○室町時代の外交について、貿易の名称を答える問題では、正答率が県、市よりも高い。 ●年代の並べ替えの問題について、正答率が低い。 ●中世の設問では、鎌倉時代の設問について、どれも正答率が、県、市平均よりも低い。特に短答式の問題では、市平均よりも7%ほど低い。 ●記述式の問題について、無回答の割合が県、市平均よりも高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的事象を、自分のことととらえ、関心を高めることができるよう、共感したり、歴史的事象を身近にとらえたりして、知識が定着するように、教材などを工夫して授業を展開することを心がける。 ・年表を活用することで、年代・世紀を確認した授業展開を心がける。また、資料活用の技能、思考・判断力・表現力を伸ばすことを意識した授業展開を心がける。 ・基礎・基本の定着を図る授業の展開を心がけ、知識をもとにした思考力・判断力・表現力の育成を図ることができるよう工夫する。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	63.2	59.8	57.0
	図形	59.2	57.1	56.1
	関数	59.4	61.8	59.8
	資料の活用	41.8	41.6	41.4
観点	数学的な見方や考え方	43.8	44.9	43.9
	数学的な技能	61.8	59.4	56.8
	数量や図形などについての知識・理解	52.5	53.0	52.3



★指導の工夫と改善

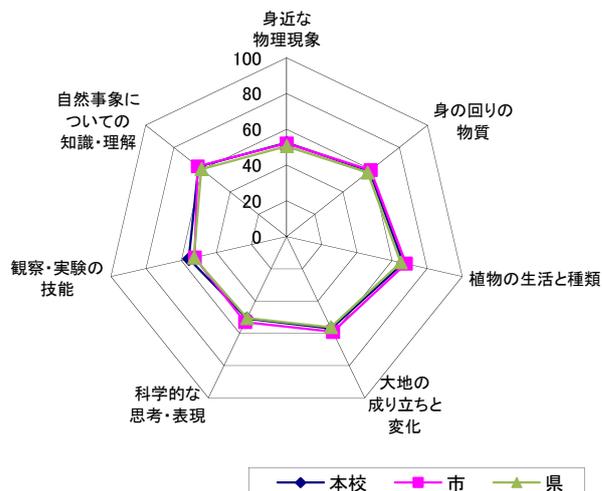
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は県、市よりも高い。 ○1次式の計算では、県平均正答率より10%以上高く、正の数・負の数や1次方程式の計算でも正答率が高い。 ●紙テープがn枚のときの面積を表す式が示されたとき、その式の説明をする問題の本校の正答率は、県や市より低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中にできるだけたくさん計算練習ができるよう問題準備を行い、生徒はそれが早く終わるとワークで更に練習をするという習慣が身につけてきている。これを継続させ、積極的に多くの練習問題に取り組みさせていきたい。 ・生徒のノートを見ると自分の考えや式、計算を書くことの習慣が身につけていない生徒が目立つので、これらの習慣化に向けて指導を強化していきたい。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は県、市よりも高い。 ○三角形の移動について、点Oと直線lを用いて説明する問題では、本校の正答率は県や市より10%程度高い。 ●見取り図から回転体を選んだり、直方体の見取り図を見て辺と平行な面を選ぶ問題について、わずかであるが県や市の正答率より低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次の図形の分野では、図形の基本性質を理解した後、証明をする学習を行うが、移動を説明する問題に積極的に答えているので、課題を精選し、この意欲を伸ばし、証明に抵抗を感じずに学習できるようにしていきたい。また、空間図形の見方については、改めて復習の時間をとって再確認していく必要がある。
関数	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は、県、市よりも低い。 ○与えられた点とy軸について対称な点の座標を選ぶ問題では、本校の正答率は県や市より10%程度高い。 ●数量の関係からグラフを選びその理由を書く問題では、本校の正答率は県や市より低く、無回答率も高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1次関数において、比例、反比例の復習を行いつつ、基礎事項を徹底させたい。 ・記述問題に関して抵抗があり、残念な結果になっている。身近な問題を取り上げ、苦手意識を払拭していきたい。また、今後は数学的に思考し、表現する力をつけるため、発展問題にも積極的に取り組みさせたい。
資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は県、市よりもわずかに高い。 ○度数、階級値、最頻値についての知識は、県や市の平均より高い。 ●相対度数の知識や、ヒストグラムを活用する問題での正答率は、県や市より低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率が県や市よりわずかに高いといっても正答率は50%を越えていない。数学の用語の意味や使い方を忘れている生徒が多く、改めて復習の時間をとって再確認していく必要がある。 ・ヒストグラムを活用することは大変重要なことである。どのように資料を読み取り活用するかを考える問題練習を取り上げていきたい。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	52.5	52.1	50.5
	身の回りの物質	58.8	59.6	57.4
	植物の生活と種類	66.5	67.8	64.9
	大地の成り立ちと変化	57.0	59.1	56.3
観点	科学的な思考・表現	50.9	53.1	50.6
	観察・実験の技能	55.7	52.4	52.7
	自然事象についての知識・理解	62.6	63.1	60.5



★指導の工夫と改善

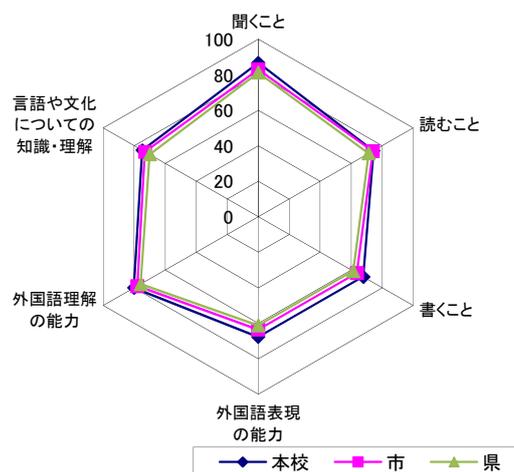
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は、県・市よりも高い。 ○物体にはたらく重力の表し方についての問題は、正答率が高い。 ●鏡で反射した光の道すじを推測、ペットボトルがぶれた理由について考察する問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・光・音・力の単位については、基本は理解できているが、思考を伴う応用問題を苦手としている傾向がある。実験後の考察を確実にし、記述したり発表したりする時間をとり、応用力を身につけさせたい。
身の回りの物質	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は、県よりも高いが、市よりは低い。 ○ガスバーナーを正しく操作する手順についての問題は、正答率が高い。 ●メスシリンダーを使って金属の体積を正しく測定する問題、分類された物質から使用された液体を推測する問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メスシリンダーなどの器具の使い方を復習するとともに、実験結果から考察する(推測する)時間を十分にとり、結果と考察の整合性が合うよう、授業の展開を工夫していきたい。
植物の生活と種類	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は、県よりも高いが、市よりは低い。 ○対照実験の結果から、光合成について考察する問題は、正答率が高い。 ●特徴から植物を分類し、その理由を説明する問題、種子をつくらない植物の仲間のふやし方に関する問題、アブラナとマツの胚珠の位置に関する問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の特徴を復習し、観察方法などの指導を強化する必要がある。
大地の成り立ちと変化	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は、県よりも高いが、市よりは低い。 ○地震によるはじめの小さなゆれの名称に関する問題は、正答率が高い。 ●白色や無色の鉱物の種類、地震の規模の大きさを表す尺度の名称、地震のゆれの記録から震央の位置を推測する問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉱物の種類や地震を表す尺度など、語句と意味を再確認する時間をとる。また、地震の揺れの伝わりから、震源や震央の位置の推測をする練習を行ってほしい。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	86.7	82.9	81.2
	読むこと	74.3	73.9	71.2
	書くこと	67.7	63.6	61.2
観点	外国語表現の能力	67.7	63.6	61.2
	外国語理解の能力	80.2	78.1	75.9
	言語や文化についての知識・理解	74.8	73.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○本校の正答率は、市平均より3.8%、県平均より5.5%高い。対話文の聞き取りや相手の質問に対する応答の正答率は良好である。	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、授業中の英語のやりとりを積極的に取り入れ、対話文を聞き取る力と応答する力を伸ばしていく。 ・まとまりのある英文を聞いて、概要・要点を聞き取る力を伸ばすために、ポイントとなる情報をメモしながら聞く練習を継続していく。 ・英語特有の発音やリズムに慣れさせるために、英語を聞き取る活動をALTとのやりとりの中で多く取り入れる。
読むこと	○本校の正答率は、市・県平均より高いが、他の領域に比べると市・県との差が小さい。 ●まとまりのある英語や長文の読み取りの正答率がやや低い。 ●対話文を読んで内容を読み取る正答率がやや低い。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を中心に、まとまりのある英文を読み、概要や要点をつかむための方法について指導していく。 ・英文内容に関する英語・日本語の質問に答えられるよう、様々な問答を繰り返し行う。 ・本文中の指示語が何を指しているか常に意識させながら、英文を読み文脈を読み取る力を身につける練習を継続して行う。
書くこと	○本校の正答率は、市平均より4.1%、県平均より6.5%高い正答率となっている。記述式の設問では、無回答率が低く、英文を書こうとする様子が伺える。場面・条件に応じた英作文の正答率は良好である。 ●テーマについて2～3の英文で説明する記述式の設問では、無回答率がやや高い。	<ul style="list-style-type: none"> ・英作文を書くための基本的な語彙力や文法を定着させるために、単語テストや文型テストを繰り返し行う。 ・条件作文の力を伸ばすために、与えられた場面や対話の流れの中でどのように表現するか考える練習を多く取り入れる。 ・テーマや場面にふさわしい英作文を書くために必要な関連語句を豊富にインプットできるよう、様々な表現を紹介していく。

宇都宮市立古里中学校 第2学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業ではクラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の肯定的回答が87.6%と県平均よりも2.4%高い。また、「グループなどでの話し合いに自らすすんで参加している」が72.3%、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」が94.9%と肯定的回答率が高く、いずれも県平均より上回っている。話し合い活動の習慣がついてきており、アクティブラーニングなどの学習の方法にもスムーズに入っていけるものと考えられる。

●一方「クラスの友達の間で、話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができる73.7%」(県平均77.7%)「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる59.9%」(県平均63.0%)が県平均よりも低い数字になっている。「授業で自分の考えを文章に書くのは難しい69.3%」は県平均より9.3%多い。今後はさらに言葉で自分の考えやわからないところを具体的に表現できるよう言語活動、考えを書いたり発表したりする能力を伸ばせるよう指導し、あわせて質問しやすい雰囲気づくりに取り組んでいく。

○家庭学習では、「自分で計画を立てて勉強している61.3%」(県平均60.2%)、「家で学校の宿題をしている98.5%」(県平均93.8%)「家で学校の復習をしている77.4%」(県平均69.8%)と肯定的回答がいずれも県平均よりも上回っている。家庭学習の習慣がついており、本校での家庭学習ノートの取組も成果の一端を担っていると思われる。また「宿題は自分のためになっている87.6%」(県平均87.6%)など決められた課題をやり遂げることができる生徒が多い。

●「本やインターネットなどを利用して勉強に関する情報を得ている44.1%」(県平均52.4%)、「家で学校の授業の予習をしている38.7%」(県平均44.0%)、「家で学校や塾などで決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている50.4%」(県平均54.8%)と学習について興味を深め、自ら学びに向かう力、また自ら学ぶための学習スキルを身に付けていくことが今後の課題と思われる。

●ゲームの使用時間が2時間以上の生徒が32.9%で、平日に4時間以上も行っている生徒が9.5%いる。ゲームの時間が長い生徒は学習の時間よりもゲームの時間が多いためか、テストの点数が取れない傾向にある。学習の時間を確保するためにも集会で生徒に指導するとともに、保護者会などで保護者に協力を求めるなど意識を高めていきたい。